

Kyohhei Sakaguchi In My Life



土反の暮・平日記

2023 2/11 (土・祝) - 4/16 (日) 熊本市現代美術館

坂口恭平日記

Kyohei Sakaguchi
In My Life

2023

2/11(土・祝) - 4/16(日)

休館日：火曜日、3月22日(水)
ただし3月21日(火・祝)は開館
開館時間：10:00-20:00(入場は19:30まで)

坂口恭平は、2020年5月より毎日のようにパステル画を描き続けています。パステル画に描かれているのは彼が訪れた場所であり、彼がみた風景です。本展では、パステル画の所蔵者・約200人による協力のもと、坂口がこれまでに描いてきたパステル画・約650点を展示します。さらに、会場内には一時的な坂口恭平のアトリエを設けます。

「坂口恭平日記」では、パステル画とアトリエを通して坂口の思考と創造の営みを紹介することにより、私たち自身の生きる日々を見つめ直します。

坂口恭平 1978年4月13日午前3時、熊本市に、父・利明、母・睦美の長男として生まれる。3510g、49cmで予定日より17日遅れて出てくる。熊本通信病院にて。里帰り出産だったため、福岡県粕屋郡新宮町に移る。

1985年 7歳 4月、新宮町立新宮小学校に入学。杜宅横にあった、砂丘のようなところに松の木の上に初めての秘密基地を建設する。

1987年 9歳 7月、熊本市立日吉小学校に転校。

1988年 10歳 この頃から家の中に「テント」と呼ばれる掘建小屋を作り始める。それは、自分の学習机を利用し、画板を屋根材として、毛布を被せ、机の下に布団を敷いてそこで食事し、寝るというもの。机を家と思った瞬間に、子供部屋が外部空間のように見えたと驚きをおぼえる。建築的思考の第一段階。

1996年 18歳 ある日、図書館で乱読中に古い文献の中にあった石山修武氏が設計した「幻庵」という作品を見て衝撃を受け、早稲田大学工学部建築学科への入学を志望する。

1997年 19歳 4月、早稲田大学工学部建築学科入学。入学早々、突如原本人への原点回帰を思いつく。頭は全て剃り落とし、格好は毎日、池袋東武で買ってきた作業衣、アフリカのサンダル、もしくは裸足という出立ち。

1999年 21歳 建築家を夢に描いていたのにもかかわらず、その仕事内容にうんざりし、完全に道を失ってしまったような感覚に陥り、精神的にもガクッ。10月、大学の課題で出していた「都市の再生」というテーマで、渋谷区内で見つけた廃墟屋上にあった貯水タンクに数日間寝むというパフォーマンス自体を撮影し提出。

2000年 22歳 就職活動もアルバイトも一切やらない日々。しかし、決めたことなのであまり不安でもなかった。金はいつも無かった。9月、



《アトリエの書斎》2021年 個人蔵



上から《湯島の漁師》2022年 Yuki, K 蔵 《梅雨の合間の池上》2021年 坂口恭平蔵 《畑の帰り道、池上の家の灯り》2022年 坂口恭平蔵 《三角西港》2020年 個人蔵 表面《三角郡浦の交差点》2020年 坂口恭平蔵

多摩川にて20年以上も川沿いに棲んでいる路上生活者と出会い、衝撃を受ける。卒業論文のテーマとして路上生活者の調査を行うことを閃く。多摩川の河口から、源流まで180キロを歩いて調査。200ページ強の巨大な百科事典のような手作り本に仕上げる。

2001年 23歳 早稲田大学工学部建築学科卒業。しかし、大学院にも行く気もなく、就職活動も全くする気が無く、金も無い、最低の状態。将来の希望は衰えず感じてはいたが、少し油断するとすぐに生活の不安にかられた。石山修武研究室地下実験工房へ通うことになる。

2002年 24歳 1月、石山研究室を卒業。築地で働き始める。

2004年 26歳 7月、とうとうトルモアより処女作『0円ハウス』出版。

2006年 28歳 7月、フーと結婚する。9月、カナダ、バンクーバー州立美術館にて個展。

2007年 29歳 7月、バイト生活を完全にやめ、執筆、美術の仕事に専念し始める。

2008年 30歳 6月、第一子、長女・碧（アオ）誕生。

2009年 31歳 11月、熊本市現代美術館にて個展「熊本0円ハウス」開催。東京・幡ヶ谷に坂口恭平研究所開設。

2010年 32歳 私塾「零塾」開設。

2011年 33歳 3月、熊本へ移住。Twitter (@zhtss) に投稿開始。5月、東日本大震災と原発事故を機に「新政府」を設立し、初代内閣総理大臣に就任。一時避難所「ゼロセンター」を熊本に開設。社会を創らなといけぬ。新しい貨幣の捉え方を示さないといけぬ。同時に原発から人々を守りたい。全国で崩壊してしまっているコミュニティを取り戻したい。

2012年 34歳 「いのちの電話」開始。「坂口恭平 新政展」ワタリウム美術館にてはじまる。

2013年 35歳 3月、長男・弦（ゲン）誕生。4月13日の誕生日に、吉阪隆正賞受賞。

2014年 36歳 2月、『幼年時代』が熊日出版文化賞を受賞。

2015年 37歳 12月、『ユリカ 総特集 坂口恭平』で美術、文学、社会学、精神医学などさまざまな角度から、評論される。

2016年 38歳 4月、熊本地震についての原稿依頼。10月、小説『現実宿り』出版。

2018年 40歳 10月、みずす書房から長編小説『建設現場』出版。初稿800枚。過去最長の長編。鬱のときの作品。12月、手書きの料理ノート『cook』を晶文社から出版。

2019年 41歳 12月、2023年に熊本市現代美術館のメインフロアを使って坂口恭平大個展を開催することが決定。

2020年 42歳 畑をはじめ。5月、パステル画をはじめ。新しいアトリエの鍵を借りた。

2021年 43歳 8月、私設の美術館 Museum を作る。いつでも誰でも絵が無償で観られる空間にしたい。

2023年 45歳 2月、「坂口恭平日記」（熊本市現代美術館）開幕。

一般：1,100 (900) 円

シニア（65歳以上）：900 (700) 円

学生（高校生以上）：600 (500) 円

中学生以下：無料

・各種障害者手帳等をご提示の方とその付き添い1名は無料 ・()内は前売/20名以上の団体/電車・バス1日乗車券等をご提示の方
・前売券は2月10日(金)まで販売 ・チケット取扱い：熊本市現代美術館、ローソンチケット [Lコード番号:82797]、セブンチケット [セブンコード:098-778]

・新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、展覧会や関連イベントの中止、開催内容に変更が生じる場合があります。詳細と最新情報については当館ホームページまたはSNSをご確認ください。・入館に際してはマスクの着用、手洗い励行、手指の消毒などにご協力ください。・入館時に検温をお願いします。

主催：熊本市現代美術館

(熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団)、

熊本日日新聞社

助成：一般財団法人地域創造、

公益財団法人DNP文化振興財団、日本財団

後援：熊本県、熊本県教育委員会、

熊本県教育委員会、熊本県文化協会、

熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、

J:COM 熊本、エフエム熊本、FM791

関連イベントと最新情報については、
当館ホームページ または SNS をご確認ください。



熊本市現代美術館

860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶるす熊日会館3階
TEL 096-278-7500 | URL www.camk.jp

アクセス

・JR 熊本駅から市電「健軍町」行 (約15分)

・JR 新水前寺駅から市電「熊本駅」「上熊本駅」行 (約10分)

・阿蘇くまもと空港からリムジンバス (約40分)

いづれも「通町筋」とおりちょうすじ」下車すぐ

生活こそすべて。毎日何をしているかだけですもんな、人生は。
—— 坂口恭平